

2015年10月30日(金)18:15-19:30

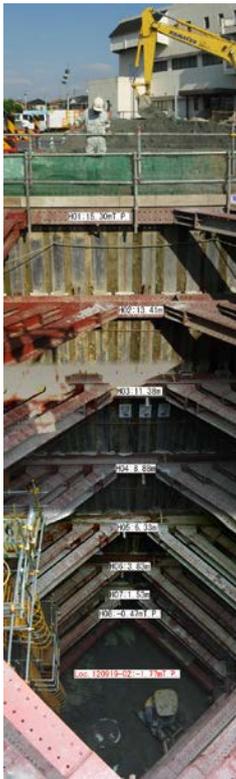
立命館大学衣笠キャンパス学而館 2F 研究会室 2

京都盆地中西部の縄文時代前期の洪水痕跡 —向日市寺戸川河床堆積物の文化財科学的研究

中塚良（公益財団法人向日市埋蔵文化財センター：地理学・考古学）

矢野健一（立命館大学教授：考古学）

2012年、向日市寺戸川河床付近の工事現場で、約5900年前（縄文時代前期末）の河川堆積物が約4mの厚さで連続的に堆積している地層を見つけました。私たちは、2015年1月、その近くでボーリング調査を実施し、現在、その土壌を分析中です。京都盆地では、同時代の京都大学構内などで洪水の痕跡が確認されており、広範囲で洪水が頻発していた可能性が高いと考えられます。今回は研究経過と課題をお話しします。



向日市寺戸川工事現場（2012年）



2015年に採取した寺戸川のボーリングコア

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335 立命館大学環太平洋研究センターHP：<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/rcppc/>